岳精流日本吟院

ちよだ

第６０号

平成３０年９月

千代田岳精会弘報

平成三十年指標

古きを知る

千代田の”青春物語“を描こう！

秋来ぬと　目にはさやかに　見えねども
　風の音にぞ　おどろかれぬる　　藤原　敏行

七月の西日本豪雨災害の爪痕は未だ癒えず、また猛暑の厳しさが体にこたえたこの夏でしたが、季節の移ろいは確実に”秋“を招いてくれているようです。

千代田の吟友の皆さんは一層お元気のことと思います。

会長　鈴木　精成

去る六月十四日の「全国吟道大会」では千代田から二二四名の参加があり、会員合吟男女では手前味噌ながら会場を圧倒したのではないかと思いました。

大会式典席上での、大会会長挨拶の中で宗家が力強く話された言葉が記憶に新たです。『夢を追おう』そして『岳精流の”青春物語“のスタートなり！』との声かけでした。

岳精流統の伝統の灯を一層輝かし、将来に向かって逞しく前進しようとの力強い呼びかけと感得した次第です。

吟界の厳しい環境を踏まえて、この言葉を自分達なりに咀嚼し取組みたいものと思っております。そこで、千代田の”青春物語“を描いてみようと考えました。左記をご一読下さい。

「千代田の教場とは」で月々述べている私見に触れながら、想いを綴ります。

○「吟友に会う」「一緒に吟ずる」そして「語らう」、吟のお付合いが千代田を逞しく前進させている。

・男女、年齢の相違を超えて、十年の知己の如き語らい、吟声が教場に響いています。これぞ”青春“です。

○新しい仲間との出会いが、お互いを強くしてくれる。

・鎌ヶ谷教場では、今のところ人数が少ないとはいえ「明日への希望」をもって、大切な新人さんを育てています。他の教場も同じ取り組みです。これぞ”青春“です。

○「吟友の賑やかさ」「教場研修の充実」等、”研修の千代田“の強さを益々発揮しよう。

・教場、課題研修、そして自主研修で今日も熱心なやりとりが繰り広げられています。これぞ”青春“です。

○元気な先輩”ナインティー“（九十歳代）に続こう。

・千代田創設時からの、七人の先輩が今もお元気です。「声を出すことが元気の源だよ」これぞ”青春“です。

平成三十年終盤の四か月、色々な”夢“と”希望“をもってスタートした一年の締めくくりです。温習会等も実施されると思いますが、仕上げに相応しい会が行われるよう期待します。この機会に新会員さんの導入が成功したら、と願っています。

武道館合吟コンクールに向けての男子チームの練習もいよいよ熱を帯びてきています。会を挙げて、高成績への声援を送ります。

平成の時を刻む期間もあと八か月。新たな年号が発せられる来年、会員皆様の吟力の向上と「千代田岳精会」の一層の前進が実現するよう熱望します。

平成三十年　全国吟道大会

創流以来、ほとんど毎年開催の会場であった川崎教育文化会館が、建物や設備の老朽化が進み、富士見通りを挟んだ富士見公園内に新しく建設された川崎市の施設「カルッツかわさき」で六月十四日（木）に開催されました。

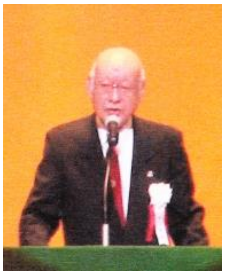
これまで岳精流は、長年の実績が認められ希望する六月中旬の土・日曜の日程が確保されていましたが、全てが白紙となり一律抽選となりました。更に川崎市の公的行事が優先されるため平日開催とせざるを得なくなった経緯については家吉幹事長が「龍吟」で述べられていましたが、これまでと異なり今後解決すべき幾つかの課題を残すことになりました。

当日は梅雨期に珍しい好天に恵まれ、千代田からは地元の会の役割と最大の二二四名が参加申し込み、開場を待って指定された会場二階席へと向かいました。

課題の一つは平日のラッシュ時間と重なったことでした。大きな荷物を持っての通勤電車利用は大変で周囲の目も気になります。今後、平日開催が続く場合何らかの知恵をしぼることになります。

新しい会場は舞台が広く、音響効果も格段に良くなりました。座席から舞台袖への行き来は、これまでのように外へ出て階段の昇り降りもなく安全でした。

大会は千代田岳精会　鈴木精成会長の「全国から参加の皆様、ようこそいらっしゃいました！」との開会のことばで始まりました。



鈴木会長挨拶

第一部　会員合吟では男子が一四〇名の参加でトリを務めました。女子もそれに次ぐ八〇名の登壇で華やかに吟じました。

第二部　合吟コンクールは一四チームが参加。千代田も男女二チームが挑戦しましたが、惜しくも入賞に届きませんでした。今年も女子の牙城は強く、上位は三河岳精会、天童王将岳精会、多摩岳精会が独占しました。

千代田岳精会女子の合吟

今年の注目は構成吟**「鹿児島吟行会」**で公開講座の内容を取り入れた構成で登壇の吟者、舞者は明治維新を牽引した薩摩の天地と西郷南洲をはじめとする人々の姿を、心を込めて吟じ演じました。

千代田から九名が指名を受け、出演しました。**「偶成」**藤田東湖を菅原龍琴・太田龍翠の連吟、律詩**「獄中感あり」**西郷南洲を徳本龍治・中内博風・宮野幸山・平井武泉の連吟で、また短歌**「君がため」**高橋峯好を六郷岳精会の北村雄山氏と連吟で犬飼勇山が吟じました。この吟題は第二次世界大戦の末期、十七歳で特攻隊員として知覧から出撃した神奈川県出身の隊員の遺作です。吟行会の企画を二人で担った、二人の魂を込めた絶唱でした。律詩**「吉次峠の戦い」**の剣舞を松尾千壮・小谷野煌弘が舞いました。一月に城山観光ホテルでの公開講座でも舞った二人、更に堂々と華麗で凛々しい舞いでした。

また、平日開催は幼少年部が参加出来ないという課題が生じました。休日の会場の確保は今後更に厳しいと見込まれ、来年も諸条件を勘案して六月の平日開催と決まったようで、幼少年や若手の会員のために良い対策を皆で提案しましょう。

今年も、本部役員、連絡係、司会、舞台と多くの会員が担当して登壇もせず、座席に座ることもなく動いて下さいました。いつもご苦労さまです、感謝しています。

構成吟「獄中感あり」に出吟して

東陽町支部教場長　宮野　幸山

鈴木会長から、二月に「全国吟道大会（六月十四日）」構成吟で「獄中感あり」西郷南洲作を徳本龍治・中内博風・平井武泉先生と連吟で出場をしてもらうので、その準備をとの連絡がありました。

徳本先生をリーダーとして四月から本格的な練習をし、六月十三日のリハーサルに臨みました。舞台裏の袖には名立たる名吟者の先生達が、プログラムの順番に従ってリハーサルをされ、舞台を見守っておられる宗家の指示を仰がれながら、余裕綽々の様子でした。　我々の出番が回ってきました。徳本先生・中内先生が下手に、平井さんと私が上手の一段高い壇上に登壇しました。尺八とシンセサイザーの伴奏に合わせて無難に吟じました。宗家の指導を仰ぎますと、園田先生から私には「もっとメリハリをつけること」との指摘があり、再度吟じ直して翌日の本番に備えました。

本番では登壇の三時間ほど前から結婚式以来の紋付袴を着ました。腹から胸のあたりへ腰紐で縛り上げた結果、感じとして吟じ難いなあと思いました。舞台出番を前にして平井さんと別室に入って自分のパートを練習しましたが、緊張で誤読をしたりして上手くいくか心中穏やかでありませんでした。独吟コンクールだとミスっても自分一人の責任で済ませることが出来ますが、連吟で、しかも千代田の代表と思うと一人でプレッシャーを大きく感じておりました。

舞台に立ったら間違いなく吟じ終えるということのみを腹に決めました。全員が吟じ終えたと心から安堵感が広がりました。前日のリハーサルからずっと会場の前列で見守っていただいた鈴木会長と磯田顧問から「良かったね」と言われ、有難く頭を下げました。私にとっては大変貴重な体験でした。徳本先生を中心としたチームワーク、お世話になりました先生方に心からお礼申し上げます。

全国吟道大会の構成吟者に選んで戴いて

神田教場長　平井　武泉

一月の最初の幹事会の際、会長から「全国吟道大会の構成吟の千代田担当の一つに四人連吟のものがあるが、予定していた一人の先生のご都合が悪く、どうしても出場出来ないので、代わりに出場するように」と言われました。会長から面と向かって言われましたので迫力にも押され、思わず分かりましたと返事をしてしまいました。しかし吟歴のある実力のある先生方が多数いらっしゃること、略礼服はダメで袴を付けるとなると借りることにしても作るにしても金がかかるという主たる理由から、会長に直ぐ辞退文を提出したのですがもう決まったことだからと一蹴され結局受けざるを得なくなりました。吟力はともかく鹿児島吟行会にも参加したこと、日頃、各種研修会等で下働きをそれなりに一生懸命やっているご褒美として選んで下さったのだと思います。「親の心、子知らず」だったのでしょう。

メンバーは徳本龍治先生・中内博風先生・宮野幸山先生という実力者揃いで、更にいつもご指導いただきお世話になっている先生方でしたので、まさに大船に乗った気持で精神的にとても楽で有難かったです。

吟題は西郷南洲の「獄中感あり」でした。練習は原則六月まで月一回の幹事会前に行いました。短時間でしたが集中して真面目にやりました。今年は五月十九日の総稽古が中止となり、全体では前日のリハーサルだけとなりましたが、有難かったのは三月十七日の全国研修会でこの「獄中感あり」を宗家がご指導くださり、我々を励まして下さったことです。本番では三先生は日頃の実力を充分に発揮されましたし、私も絶句することなく吟じきれました。剣舞の伴吟でしたので舞者の皆様に迷惑をおかけすることなくホッといたしました。

初参加者の声

今回、初参加の新しい会員のご感想をお願いしました。

全国吟道大会に参加して

清水　山根　敏男

大会は吟礼から始まり全国各地の岳精会、支部、教場の力強い合吟に圧倒される。舞台で拝見する皆様は、礼節を重んじての立ち居振る舞いに荘厳さを感じました。

私も千代田岳精会の一員として、初めて一般合

吟と特別寿栄吟詠に参加、今までご指導頂いた「吟声の錬磨」「正しい姿勢」「岳精流の節調」で吟じるように心掛けていましたが、まだまだ勉強不足で思うように吟じられませんでした。

先生方の吟詠と構成吟**「鹿児島吟行会」**のＮＨＫドラマ「西郷どん」を先取りしたスライド入りの吟詠の素晴らしさに、感動してしまいました。

これからは詩吟に対してもっと勉強をして、頑張って参りますのでご指導の程よろしくお願い申し上げます。

全国吟道大会に初めて参加

みなとみらい　園山千代子

みなとみらい教場が設立されて丸一年が経過した頃に全国吟道大会に参加させて頂きました。私達の教場には女性が三人で、皆がまだ詩吟を始めて一年目です。

千代田岳精会女子八〇名による**「青の洞門」**網谷一才の合吟に参加しました。壇上では少し緊張しましたが諸先生方にリードされて何とか吟じ終え、僭越ながら素敵な会場で吟じられたことに満足していました。

構成吟**「鹿児島吟行会」**は西郷隆盛の生涯が見事に構成され感銘しました。また、普段接することの出来ない宗家の吟詠に深く感動しました。

大会に参加して素晴らしい沢山の吟を拝聴することができました。私自身としてはきれいな母音発声を心掛け、滑舌をはっきり表現出来るように努力をしながら詩吟を楽しんで参りたいと思います。

全国吟道大会に初めて参加

ハザマ支部　川口　忠明

詩吟を始めて一年半、全国吟道大会に初参加させて頂きました。全国各地から集まられた会員の皆様の素晴らしい合吟、コンクール吟、本部役員吟詠、会長吟詠には感激いたしました。

今後詩吟を続けていく上での大いなる励み、勉強になりました。

宗家横山精真先生による構成吟**「鹿児島吟行会」**には感動と共に吟の楽しさも見たような気がしました。

私事ですが、五十数年前初めて赴任した建築現場が川崎市第二本庁舎建設（議会棟併設）でした。その側を通って今年の会場である「カルッツかわさき」で、昨年の秋に完成整備された大ホール会場です。

岳精流日本吟院総本部も近くにあります。これから吟を続けていく縁めいたことを感じています。

全国吟道大会に出席して

東陽町支部　平居　俊雄

昨年五月東陽町支部教場に入会し、一年後の去る六月十四日「カルッツかわさき」での全国吟道大会に初めて参加しました。

舞台両袖には沖縄から北海道に至る各会の旗が並び、今回新たに鹿児島支部が設立されたとの紹介がありました。薩摩隼人の地で吟道が何故今まで空白だったのか不思議な気がしましたが、何はともあれ岳精流が日々発展・拡大している証を肌で感じました。

プログラムでは合吟、独吟が尺八の伴奏で場内に響き渡り、全国トップレベルの迫力と日本の伝統芸能の凄さを痛感しました。

「鹿児島吟行会」の時宜を得た構成吟は、各準備をされ、圧巻の吟詠でした。

全国吟道大会に初参加して

ハザマ支部　高岡　幸雄

入会半年の私は、期待と不安を胸に「カルッツかわさき」に入場しました。そこは準備が全て整った私が初めて目にする舞台でした。

また、諸先輩が溌溂と入場される姿に岳精流の歴史と伝統の重みを感じました。

厳粛の中、宗家信条**「真善美」**に始まり九〇の吟詠が遅延なく進行するさまに驚き、華麗な吟詠が二階席までとどくことに感動し、短歌では同じ人が詠じているように聞こえ感激しました。

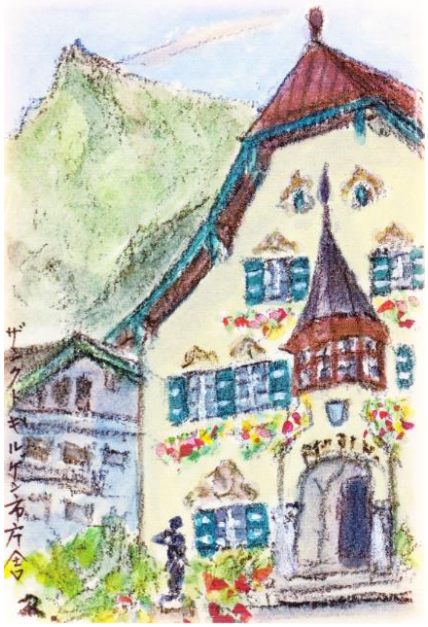
宗家の吟詠を拝聴した時は、水面に溶けて行くような感情になり鈴木会長が言われる「母音の芸術」の言葉が脳裏に浮かび、楽しい充実した一日を体験しました。

大会運営担当の皆様に心より感謝し、当日ご都合で欠席の先輩はじめ、ご指導下さった皆様にお礼申し上げます。

千代田岳精会人事

平成三十年七月一日付

◎丸の内支部教場　副教場長　近藤　美山



オーストリア　ザンクトギルゲン市庁舎
星野久風（清水）

春の昇伝審査（二）

初伝審査を終えて

日暮里　藤原　玲泉

この四年間、二月頃になると四月の昇伝審査のことが気になりだし、近づくにつれて心が張り詰めた状態の日々が当日まで続きます。

今年は特に二つの指定吟題があり、暗記をしなければというプレッシャーに今まで以上に緊張しました。思えば子供の頃から人前で何かをすることが苦手というより嫌いで、親に勧められたピアノも発表会があるからと拒み続けました。大人になっても子供の学校の保護者会で発言をする度に顔が引きつってしまうので自己嫌悪に陥り悩みました。そんな私がまさか人前で吟ずることになろうとは、四年前までは考えもしないことでした。

この度、初めて雅号を認許されたわけですが自分ではまだまだ恐れ多い気がします。息継ぎ、母音の発音などこれから努力し、習得しなければならないことは沢山あります。私の名前である「玲」には玉や金属がふれ合って鳴る美しい音という意味があります。その名に少しずつでも近づけるように、そしていつの日にか緊張することなく、堂々と自信をもって吟ずることができる日を目標に、先生のご指導のもとこれからも精進して取り組みたいと思っています。

雅号「泉」を戴いて

丸の内　前田　春泉

子供の頃から何事も三日坊主で、生来の音痴でもある私は、誘われて教場に来てはみたものの雅号を戴くまで続くとは想像もしておりませんでした。ところが一生懸命大きな声を出した後の爽快感が何とも言えず、あっという間に四年も続いておりました。

岩崎先生、山口先生、蒐場教場長をはじめとする諸先輩の暖かいご指導の賜と深く感謝致しております。

さて、審査当日は会場に入ると緊張が頂点に達し頭の中が真白になりました。予想通り思うようには行きませんでしたが、何とか吟じ終えることが出来ました。

雅号は自分の名前を使わず「春泉」としました。雅号を考えるという初めての経験も、楽しく忘れられないものとなりました。春は一斉に花咲き鳥鳴く、一年で一番ワクワクする大好きな季節です。寒く厳しい冬であっても、必ず春はやって来ます。素質も実力もない私ですが、これからもいつか春が来ることを祈りつつ、素晴らしい先生方や吟友の皆様のお力添えを戴きながら、楽しく精進して参りたいと思っています。

初めて声を出して三年半

日暮里　山口　昭泉

ある会合で初めて詩吟を聴く機会がありました。その際に、吟じられる力強い声が身体中に入ってくるのを感じました。

その後、教室を紹介していただき現在に至っております。初めて人様の前にて声を出しました時はなかなか思うように声が出ずにおりましたが、教室の先生をはじめ皆様にお教えいただきながら、いつの間にか三年半に至りましたこの頃です。

お蔭さまで、いくらか近頃は口の中でもぐもぐとしていたものが少しだけ大きな声が出せたなと自分でも感じるような気がいたして嬉しく思っています。

これからも少しでも上達出来ますよう精進し

て参りたく思います。

「泉」といえば

新宿第二　青山　昇泉

不肖の生徒ながら、先般ありがたく「泉」の雅号を賜りました。

多忙にかまけて教場にもなかなか足を運べず、ただただ生徒としての馬齢を重ねた身にとりまして、誠に勿体ない戴きものです。

わあ、おめでとう。ねえ、「泉」とは？ねえねえ「泉」って何なのさ？

そこで、私は「泉」の何たるかについてまるきり無知であることを思い知りました。早速調べるに如くはなし。インターネット検索とやらで手を打ちます。ところが、検索結果には吟に関するものなど見当たらず、せいぜいが「泉アウトレット」、下手すると「泉ピン子」ではありませんか。

音を上げた私は教場の先生に教えを乞いました。何でも岳精流への在席の年数により受け取れる位の称号とのこと。奮励次第で「山」へ「風」へと至る栄誉だそうです。

ところで「泉」といえば大好きな泉鏡花もまた「泉」だ。込み入った文章で土着風味の怪綺譚などよくものにし、大の潔癖症、酒さえも煮沸なしには喉を通さなかったという。

鏡花の「歌行燈」は謡いの天才にして傲岸不遜な主人公の話だ。はぁ、自分にもそんな詩吟の天分があったらなあ…。でも、才能に恵まれて慎みを忘れるより僅かずつでも地べたをズルズル這い進む喜びを覚えよう。

そう言えば泉鏡花は戯れに「畠芋之助」と名乗っていたといいます。私にゃ、まだまだ「泉」なんかより「芋之助」のほうがお似合いです。

昇伝審査に参加して

熊谷　中田　麻泉

爽やかな初夏の風が吹き抜ける良き日、諸先生方には大変お世話様になり、有難うございました。

審査会場に足を運びつつ重い空気が頭の中をよぎります。今年こそは腹式呼吸で大きな声を出そうと心に決めていたのですが、日々の努力が乏しいため、残念な結果でした。ですが奥村先生には大変けっこうでしたとアドバイスして頂き嬉しかったです。

一歩前進**「吟は命なり」**のお言葉とおり、これからは小林教場長の指導をしっかり学びたいと思います。どうぞ宜しくお願い申し上げます。お陰様で雅号「泉」を頂戴致しました。精進致します。

本当に有難うございました。

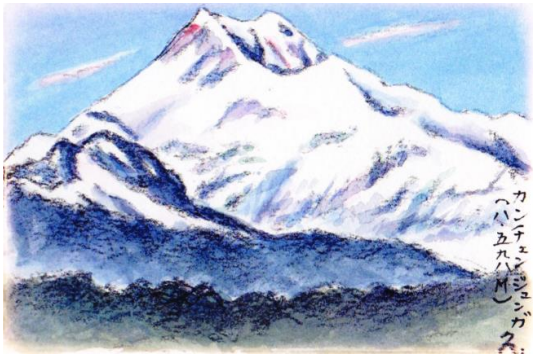
第五十回全国吟剣詩舞道大会

（武道館コンクール）

昨年、男子の精鋭が挑戦し第四位と惜しくも入賞を逸したが、男子チームではトップという千代田として過去最上位を達成し、厳しい練習の苦労が報われる思いをした。

今年は、更に上位入賞を目指し男子チームが李白の名作**「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」**を三本で挑戦と決まり、参加希望の会員が鈴木会長、岩崎精慶顧問、徳本副会長の指導で密度の濃い練習に入った。

今年は十一月十日（土）がコンクール。三位までの入賞チームは翌日披露と二日間の出演となる。今年こそ三位以上を獲得出来るよう出場の皆さんの研鑽と健闘を期待し、千代田こぞって応援しましょう。



カンチェンジュンガ（ネパール・インド）
星野久風（清水）

新規会員に寄せて

神楽坂教場長　勝村　忠山

新規会員が順調に加入しているとは言い難い時は流れ、増えては減り減っては増え、教場経営の難しさを実感して十年。十七人から二十人は常にキープしている状況だ。

初期は詩吟の未熟さを突かれ、落ち着かない時期もあり苦労に喘いだが今は違う。詩吟ごっこをしているのではない。数の世界か、開き直りか、教場は笑顔に満ち溢れた雰囲気を保ちながら続いている。

流統の指導を忠実に伝道するのが与えられた役目。月二回の教室では終始懸命に向き合い、会員が確実に階段を上がれるよう努めている。

教場十年の積み上げで今がある。不信や不安が募るであろうが、皆がその時期を乗り越えている。詩吟に触れ、ある時期楽しさが増し、充実感が増し、教え合える友が増え、触れ合う日がないと寂しく思う。

私は一人カラオケに時々行く。楽器を持つ数多くの老齢者にお会いする。今日も上達を歩み続ける熱心な人達に遭遇する。共通の趣味の方たちだ。

【新　会　員　紹　介】

◇桜ケ丘教場

今　純子さん（五月入会）

第一印象は「まるで道場のよう！」発声練習に始まり、一つの作品を丁寧に掘り下げて学べる素晴らしい教場でした。文字通り六十の手習いです。腹式呼吸を身につけ体幹を鍛えていきたいです。これからも、宜しくお願いいたします。

◇ハザマ支部教場

高岡　幸雄氏（十二月入会）

趣味と言えば唯一走ることでしたので、尊敬する方に誘いを受け文学的教養を知る良い機会と見学。自己紹介の後、吟礼に始まり先輩方の乱れない吟声に感心しました。鈴木会長の指導吟**「追分の・・・」**を聴いた時はなぜか目頭が熱くなりました。また一つ心に残るものを見つけた思いで、その日に入会届を出しました。先生をはじめ親切な諸先輩の指導を頂き、毎日楽しく発声と吟詠を学ばせて頂いていることに感謝と喜びを感じています。

◇みなとみらい分室教場

岡野　茂樹氏（五月入会）

この度、諸先輩より紹介賜りみなとみらい分室に入会させていただきました。詩吟は初めての経験ですが、皆様には懇切丁寧にご指導いただいており、毎回楽しく参加させて頂いております。研鑽を重ねて上達することを目標として真剣に取り組んでまいります。

◇東陽町支部教場

和田　洋氏（五月入会）

都内の某美術館の工事の関係者が竣工以来、懇親会を行っています。去年の会合で千代田岳精会の会員の伊藤彰一さんが、詩吟を三年間習った楽しい経験談を披露され、私も何か趣味を持ちたいと思っていたのでその場で入会をお願いしました。

今年の四月十一日（七十五歳誕生日）に詩吟を初体験し、ご高齢の先生方のシャキッとした姿と熱の入ったご指導を受け、詩吟はとても奥が深いものだと感じました。ライフワークとして経験を積んで、皆様の前で堂々と吟詠したいと思います。

訃報

◆望月　輝風氏（清水教場）

平成三十年七月二十七日逝去されました。享年八十八歳。生前にご遺志として岳精流本部、及び千代田岳精会に多額のご高志を頂戴いたしました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

平成三十一年度　㈶日本吟剣詩舞道連盟
全国吟詠コンクール指定吟題

- 感有り　山崎　闇斎
- 楠公子に訣るるの図に題す　頼　山陽
- 春簾雨窓　頼　鴨厓
- 黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る　李　白
- 烏江亭に題す　杜　牧
- 海に泛ぶ　王　守仁
- 暁に発す　月田　蒙斎
- 落花　徳富　蘇峰
- 山亭夏日　高　駢
- 梅花　王　安石

訂正とお詫び

「ちよだ」五九号に掲載の小林明風熊谷教場長の「無料詩吟講座への道」で、原稿送付段階で不具合があり文章に欠落がありました。ご迷惑をおかけしましたことをお詫びし、左記のとおり訂正をいたします。

十頁　一段左から三行目

[誤]チラシは森谷さんが商店や食堂にも置いて下さいました。

当日は花山先生が…

[正]チラシは森谷さんが商店や食堂に、又私達も知人にお願いし、教本は五〇部作りました。

先生方は磯田先生、菊地先生、花山先生が…

お知らせとお願い

総本部の広報紙「龍吟」に「読者の声」欄を作りました。頂いた感想やご意見を掲載し、今後の編集の参考にさせて頂いています。

「関心、共感をもって読んで頂ける広報紙」作りに、最大規模の千代田会員の皆様から率直なご感想、ご意見を是非「龍吟」にお寄せ下さるよう、お願いしお待ちしております。様式や字数等は自由です。弘報部八田へお願いします。

編集後記

早い梅雨明けとともに、猛暑の夏に突入。暑さで名の知れている熊谷で四一・一度と観測史上最高を記録したほか、全国各地で四〇度やそれに近い気温を記録する異常な状態でこれは地球全体の傾向で、各国で大きな火災が発生している。

これまでに経験したことの無いと言う豪雨が西日本で広範囲に降り、台風や津波に匹敵する人的・物的大被害を出し、災害処理に取り組む中で台風十二号が関東から西に通り抜けた。これまでの台風と真逆のコースでこれも地球温暖化の一現象と言えるのだろう。

自然の猛威は人間の力の及ぶところでないと言われ、自然の姿を変えることは人力では難しいしあり得ないとも言えるが、それでも地球温暖化を少しでも抑えることを心掛け、試みることは現在地球を支配している人間の務めと思う。

京都の祇園祭が中止された。二年後に迎える東京オリンピックも開始時間を早める等健康管理への対策に取り組んでいる。

世界の二大国が現状を無視し逆走の傾向にあるなか、我々はささやかでも一人ひとりが小さなことからでも取組みましょう

ご寄稿下さった皆様有難うございました。

八田　龍仁